高校生や大学生等による オンライン不登校支援活動

茨城県　For Everyone Study 代表　植竹智央

1対1での不登校児童生徒へのオンライン学習支援

【活動概要】

茨城県を拠点とするボランティア団体、For Everyone Study（以下、FESと略す）は高校生・大学生を含む46人のスタッフで構成されており、不登校児童生徒にオンラインで新たな居場所を提供している。主な活動内容は学習支援（利用者6名）、コミュニケーション支援（利用者9名）であり、週に1回、約1時間ずつビデオアプリを通じて個別に行っている。そのほかにも、オンラインゲーム交流会（月に1回）、不登校関係者情報交換会（2か月に1回）、共同研究など活動は多岐にわたる。

【活動の特徴・強み】

FESの活動の最大の特徴は、オンラインツールを活用していることである。不登校となっている児童生徒は、家族以外の他者との接触に心理的な抵抗感を覚えることがある。そこで、オンラインツールを活用し児童生徒にとって安心できる環境を提供することで、心理的安全性を担保し、支援に対するハードルを下げることを可能にしている。さらに、活動を基本的に一対一の形式に限定することによって心理的安全性をより高めている。また、このような活動形態を採用することによって、小学校低学年の児童をもつ保護者は、児童が活動している最中に家事等を行うことができ、保護者の負担の軽減にも繋がっている。一方、オンラインで活動することは、スタッフにもメリットがある。主な点として、対面の活動と異なり活動場所へ移動する必要がないことが挙げられる。時間の効率化に加え、身体障害のある学生のボランティアへの参加を容易にし、実際に彼らに活動の機会を提供することも実現できた。

スタッフが高校生や大学生で構成されていることも特徴の一つである。こうしたスタッフは、支援を受ける児童生徒の側から見ると年齢が近いので、共通の話題を持ちやすく、親近感を得やすい。また、スタッフは学校と利害関係を持たないため、学校に戻そうとする意図がなく、学校関係者との接触を避ける傾向がある不登校児童生徒にとって関わりやすい存在となっている。

このような特徴を活かして、ピアサポートと斜めの関係性を意識した支援方法を提供することで、不登校児童生徒の行き渋りの解消にも効果を発揮している。

【共同研究について】

FESでは、活動成果を発信するため、学生が自身の活動をまとめ、学会での発表を行っている。例えば、本団体では、独自のスタッフ育成プログラムを用いてスタッフの支援スキル向上を図っている。実際に、このプ

ログラムを通じて学生が本活動への理解を深め、それが円滑な不登校児童生徒への支援につながるという成果が得られている。このような成果について、常磐大学の島田茂樹准教授と共同研究を行い、日本行動分析学会において「オンラインでの不登校児童生徒の支援を行うスタッフへの育成プログラム」という題目でポスター発表を行った。現在も心理学的な視点で研究を行っている。

また、宇都宮大学の先生とはＦＥＳの活動に関する報告を行った。現在は、東大阪大学の先生と社会福祉的な視点で研究を行っている。その中で、オンライン支援活動はひきこもりや独居の高齢者への代替訪問などにも応用できる可能性が示唆された。オンラインツールを活用した対人支援の可能性を広げることで、次世代の他者支援に繋げ、社会全体における孤立の防止や、ＩＣＴを活用した人との関わり方のさらなる広がりが実現されることを目指している。

For Everyone Study 総会2024年

【事業の継続性】

ＦＥＳは茨城県ＢＢＳ連盟と連携しており、必要なスタッフ数の確保に繋げている。また、スタッフが社会人になっても、事務や学生スタッフの相談等といった活躍の場を引き続き提供している。また、卒業するスタッフが担当していた児童生徒を新たな学生が引き継ぎ、支援を途切れさせないよう努めている。

ＦＥＳの事業の継続性に関するもう一つの特徴として、元支援対象者がスタッフとして活動していることが挙げられる。元支援対象者は、現在、自らの経験を活かし、不登校児童生徒に対して効果的に介入するのみならず、自身の経験を語ることを通じてスタッフが支援対象者の視点を取り入れることを促進している。このように、以前にＦＥＳの支援を受けていた者が支援側に回ることは、単なる人員確保に留まらず、スタッフの質の維持、ひいては質の高い事業が継続されることに貢献している。

【今後の構想】

今後の計画としては、民間のフリースクールや不登校関係団体との連携を強化し、情報共有を通じて、啓蒙活動を進めることを想定している。

また、ＦＥＳではこれまでオンライン中心の活動を実践してきた。しかし、最近では水戸市内の児童から、「オンラインよりも対面が良い」という要望を受け、訪問型の支援を新たに始めた。今後も児童生徒の多様なニーズに応じた支援を実施していくことを構想している。

【まとめ】

ＦＥＳはＩＣＴを活用して子どもたちに社会とのつながりを提供しており、不登校児童生徒の社会的孤立防止に貢献している。さまざまな活動の成果として、不登校児童生徒の登校状況が改善され、保護者や参加者からは肯定的な反応が得られている。

令和４年度には、社会活動に向けてのチャレンジ精神を醸成するとともに、非営利の社会貢献活動を促進することを目的とした「いばらきチャレンジアワード『支え合い２０２２』」にて茨城県知事賞を受賞した。また、令和５年度には、こども家庭庁の表彰事業である「未来をつくる　こどもまんなかアワード」にて、この活動が評価され、代表の植竹が個人で唯一「こども・若者活動奨励章」を受賞した。

ＦＥＳは今後も活動を拡大し、より多くの子どもたちを支援することで、社会的に孤立し悩む児童生徒がいなくなる社会の実現をしたいと考えている。